

令和4年度 福島県立相馬農業高等学校 学校経営・運営ビジョンに関する意識調査（第2回） 分析

A: 当てはまる（そう思う） B: だいたい当てはまる（だいたいそう思う） C: あまり当てはまらない（あまりそう思わない） D: 当てはまらない（そう思わない） 無回答

意識調査No. 1		<教務部>																			
	生徒	保護者	教員																		
	あなたは、朝の基礎学習に真面目に取り組 み、学習する姿勢が身についた。	-	生徒は、朝の基礎学習に取り組んで学力がつ いてきた。																		
結果	<table border="1"> <caption>結果 (意識調査No. 1)</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>A (70%)</th> <th>B (20%)</th> <th>C (10%)</th> <th>D (3%)</th> <th>無回答 (2%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>7%</td> <td>53%</td> <td>30%</td> <td>7%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>33%</td> <td>51%</td> <td>13%</td> <td>2%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>			対象者	A (70%)	B (20%)	C (10%)	D (3%)	無回答 (2%)	教員	7%	53%	30%	7%	2%	保護者	33%	51%	13%	2%	0%
	対象者	A (70%)	B (20%)	C (10%)	D (3%)	無回答 (2%)															
教員	7%	53%	30%	7%	2%																
保護者	33%	51%	13%	2%	0%																
原因及び反省	<p>○朝の基礎学の時間は非常に落ち着いている様子が見られる。その一方で、答えを写しているだけという生徒も見受けられると指摘がある。〈教員〉</p> <p>○あまり大きな変化はないが、Bが4ポイント下がった。定期考査における基礎学力テストの不合格者が多いため、学力向上に結びついていないと感じているのではないかと（到達度テストでは基礎学力の向上が確認できている）。〈生徒〉</p>																				
改善策	<p>○生徒の中には「やらされている」という意識が強い者も多くいるため、実施方法を検討する必要がある。例えば、朝の基礎学を紙媒体ではなく、タブレット端末をベースにし、蓄積したデータを各教科における「主体的な態度」の評価に組み込み、取り組む姿勢そのものを評価していくといったことが有効ではないだろうか。また、不合格者への指導については、再テストを繰り返すのではなく、フォローアップ課題を個別に配信し、学習の個別最適化を進めていくことも考えていきたい。</p>																				

意識調査No. 2		<教務部>																									
	生徒	保護者	教員																								
	あなたは、定期的に家庭で学習に取り組んで いる。	お子さんは、定期的に家庭で学習に取り組ん でいる。	あなたは、定期的に家庭で学習できる指導を している。																								
結果	<table border="1"> <caption>結果 (意識調査No. 2)</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>A (10%)</th> <th>B (23%)</th> <th>C (35%)</th> <th>D (32%)</th> <th>無回答 (2%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>14%</td> <td>70%</td> <td>14%</td> <td>0%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>13%</td> <td>41%</td> <td>39%</td> <td>7%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>10%</td> <td>33%</td> <td>45%</td> <td>11%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>			対象者	A (10%)	B (23%)	C (35%)	D (32%)	無回答 (2%)	教員	14%	70%	14%	0%	2%	保護者	13%	41%	39%	7%	0%	生徒	10%	33%	45%	11%	0%
	対象者	A (10%)	B (23%)	C (35%)	D (32%)	無回答 (2%)																					
教員	14%	70%	14%	0%	2%																						
保護者	13%	41%	39%	7%	0%																						
生徒	10%	33%	45%	11%	0%																						
原因及び反省	<p>○スタディサプリの定期配信を始めたため、事実、生徒の家庭学習時間は増加しており、教員も実感しているようである。ただし、取り組む生徒と取り組まない生徒の二極化が起きてしまっている。〈教員〉</p> <p>○Cが4ポイント増加し、理由の自由記述でもネガティブな考えが多い。勉強すること自体に意義を見いだせていないのではないかと。〈生徒〉</p>																										
改善策	<p>○「学習」というものにネガティブなイメージがあるため、「学習」そのものをもっと広い視野で捉え直させることが必要である。国数英理社の5教科以外にも、家で本や新聞を読むことや、検定試験の勉強をすることも「学習」の一環であることを認識させていきたい（実際、検定試験の勉強を頑張っている生徒は多い）。また、アンケートの文言にある「定期的」という表現をもっと具体的にすることで、3者のギャップを埋め、共通理解を図ることができるのではないかと。</p>																										



令和4年度 福島県立相馬農業高等学校 学校経営・運営ビジョンに関する意識調査（第2回） 分析

A: 当てはまる（そう思う） B: だいたい当てはまる（だいたいそう思う） C: あまり当てはまらない（あまりそう思わない） D: 当てはまらない（そう思わない） 無回答

意識調査No. 5		<生徒指導部>		
		生徒	保護者	教員
		あなたは服装・頭髪など、自らの身だしなみを整えている。	学校は服装・頭髪など、生徒自らが身だしなみを整えられる指導を適切に行っている。	学校は服装・頭髪など、生徒自らが身だしなみを整えられる指導を適切に行っている。
結果	教員	A, 42%	B, 56%	C, 2% D, 0%
	保護者	A, 56%	B, 39%	C, 3% D, 1%
	生徒	A, 55%	B, 37%	C, 8% D, 0%
原因及び反省	○前回同様、教員、保護者、生徒の意識の向上が見られる。			
改善策	○集団の一員として、実社会での在り方、ルールなどと結び付けて、粘り強く指導を行う。 ○生徒指導提要の改訂に伴う校則の見直しを図る。			

意識調査No. 6		<生徒指導部・農業部>		
		生徒	保護者	教員
		あなたは、部活動や農業クラブ、伝統芸能継承活動に積極的に参加して活動している。	お子さんは、部活動や農業クラブ、伝統芸能継承活動に積極的に参加して活動している。	あなたは、生徒が部活動や農業クラブ、伝統芸能継承活動に積極的に参加して活動するように指導している。
結果	教員	A, 44%	B, 51%	C, 0% D, 2% 無回答2%
	保護者	A, 53%	B, 34%	C, 11% D, 2%
	生徒	A, 40%	B, 43%	C, 15% D, 2%
原因及び反省	○教員の評価が上昇し、C評価がなくなった。 ○例年、2学期以降に部活をやめる生徒が見受けられていたが、教員の積極的な働きかけによって生徒、保護者の評価を維持することができた。			
改善策	○教員の積極的な働きかけによって評価を維持していきたい。			

令和4年度 福島県立相馬農業高等学校 学校経営・運営ビジョンに関する意識調査（第2回） 分析

A: 当てはまる（そう思う） B: だいたい当てはまる（だいたいそう思う） C: あまり当てはまらない（あまりそう思わない） D: 当てはまらない（そう思わない） 無回答

意識調査No. 7		<生徒指導部・保健部>																										
	生徒	保護者	教員																									
	あなたは、高校生活をとおして以前より自信が持てるようになった。	お子さんは、高校生活をとおして以前より自信を持つようになった。	あなたは、生徒が学校生活をとおして以前より自信が持てるような指導に努めている。																									
結果	<table border="1"> <caption>結果 (意識調査No. 7)</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>44%</td> <td>53%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>45%</td> <td>46%</td> <td>7%</td> <td>1%</td> <td>1%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>40%</td> <td>47%</td> <td>11%</td> <td>2%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>				対象	A	B	C	D	無回答	教員	44%	53%	0%	0%	2%	保護者	45%	46%	7%	1%	1%	生徒	40%	47%	11%	2%	0%
対象	A	B	C	D	無回答																							
教員	44%	53%	0%	0%	2%																							
保護者	45%	46%	7%	1%	1%																							
生徒	40%	47%	11%	2%	0%																							
原因及び反省	<p>○全体的に評価が上がっている。</p> <p>○2学期以降、各種行事の実施により、生徒が活躍できる場面が増えた結果ではないかと思う。</p>																											
改善策	<p>○今後も新型コロナを考慮しながら、様々な行事の実施を図り生徒が活躍できる場面を増やす。</p>																											

意識調査No. 8		<進路指導部>																										
	生徒	保護者	教員																									
	あなたは、進路行事を通して卒業後の進路を考えるようになった。	お子さんは、進路行事を通して卒業後の進路を考えるようになった。	生徒は、進路行事をとおして卒業後の進路を考えるようになった。																									
結果	<table border="1"> <caption>結果 (意識調査No. 8)</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>28%</td> <td>63%</td> <td>5%</td> <td>2%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>39%</td> <td>44%</td> <td>16%</td> <td>1%</td> <td>1%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>51%</td> <td>38%</td> <td>11%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>				対象	A	B	C	D	無回答	教員	28%	63%	5%	2%	2%	保護者	39%	44%	16%	1%	1%	生徒	51%	38%	11%	0%	0%
対象	A	B	C	D	無回答																							
教員	28%	63%	5%	2%	2%																							
保護者	39%	44%	16%	1%	1%																							
生徒	51%	38%	11%	0%	0%																							
原因及び反省	<p>○1回目と比較すると、保護者と教員の「C」の割合が減った。2学期になり、3年生の進路活動が本格的となり、目に見えて生徒が進路を考えるようになったことが要因と思われる。</p> <p>○生徒の「A」と「C」が増えている。「A」が増えた要因としては、生徒が積極的に進路行事に参加し、主体的に取り組むようになったからと思われる。</p>																											
改善策	<p>○生徒の「C」を減らすために、生徒との面談を通して、進路意識を向上させるようにする。</p>																											

令和4年度 福島県立相馬農業高等学校 学校経営・運営ビジョンに関する意識調査（第2回） 分析

A: 当てはまる（そう思う） B: だいたい当てはまる（だいたいそう思う） C: あまり当てはまらない（あまりそう思わない） D: 当てはまらない（そう思わない） 無回答

意識調査No. 9		<進路指導部>	
	生徒	保護者	教員
	学校は、進路に関する情報を十分に提供している。	学校からの進路情報を参考に、お子さんと進路に関する話をしている。	学校は、進路に関する情報を生徒・保護者に十分に提供している。
結果	教員	保護者	生徒
	A, 40%	A, 34%	A, 42%
	B, 56%	B, 45%	B, 47%
	C, 2% D, 0%	C, 19% D, 2%	C, 11% D, 0%
無回答2%			
原因及び反省	○1回目と比較して、教員・保護者の「A」が増えた。全体的に進路情報を発信したためと思う。 ○保護者の「C」「D」が多いのは、「進路だより」が手元に届いていない可能性がある。		
	改善策	○「進路だより」をホームページに掲載する。 ○メール等で進路行事の連絡するようしたり、「進路だより」を生徒に配布したことを発信する。	

意識調査No. 10		<保健部・総務部・農業部>	
	生徒	保護者	教員
	学校は、安全な学習環境づくり（コロナ感染防止等）に取り組んでいる。	学校は、安全な学習環境づくり（コロナ感染防止等）に取り組んでいる。	あなたは、安全な学習環境づくり（コロナ感染防止等）に努め、感染対策を生徒に指導している。
結果	教員	保護者	生徒
	A, 44%	A, 37%	A, 43%
	B, 53%	B, 55%	B, 44%
	C, 0% D, 0%	C, 6% D, 1%	C, 11% D, 1%
無回答2%			
無回答1%			
原因及び反省	○学校生活全般で安全対策に取り組んでいる。 ○マスクの着用やアルコール消毒等について、大部分の生徒が習慣化している。意識の低い生徒が一部いるため、生徒のCDの割合が12%となっている。		
	改善策	○引き続き、マスクの着用、アルコール消毒、教室の換気等の指導を行う。 ○高温下での体育や実習では、事前に、マスクはしなくてもいいなど伝えることが必要である。	

令和4年度 福島県立相馬農業高等学校 学校経営・運営ビジョンに関する意識調査（第2回） 分析

A: 当てはまる（そう思う） B: だいたい当てはまる（だいたいそう思う） C: あまり当てはまらない（あまりそう思わない） D: 当てはまらない（そう思わない） 無回答

意識調査No. 11		<総務部・農業部>																									
	生徒	保護者	教員																								
	学校は、ホームページ掲載やメール配信などの情報発信に努めている。	学校はホームページの掲載やメール配信などの情報発信に努めている。	あなたは、ホームページ掲載に努め、メール配信を活用している。																								
結果	<table border="1" style="display: none;"> <caption>調査結果の割合</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>A (%)</th> <th>B (%)</th> <th>C (%)</th> <th>D (%)</th> <th>無回答 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>21</td> <td>33</td> <td>40</td> <td>2</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>35</td> <td>54</td> <td>9</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>40</td> <td>41</td> <td>17</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>			対象者	A (%)	B (%)	C (%)	D (%)	無回答 (%)	教員	21	33	40	2	5	保護者	35	54	9	1	1	生徒	40	41	17	1	1
	対象者	A (%)	B (%)	C (%)	D (%)	無回答 (%)																					
	教員	21	33	40	2	5																					
保護者	35	54	9	1	1																						
生徒	40	41	17	1	1																						
原因及び反省	<p>○生徒、保護者のABの割合が高く、ホームページやメール配信システムを有効に活用しているのがわかる。                  ○1回目より教員のABの割合は多くなったが、ホームページ掲載やメール配信が一部の教員に限られてしまっている傾向がある。</p>																										
改善策	<p>○ホームページやメール配信システムについて、教員向けの講習会を継続的に行っていく必要がある。また、月ごとにホームページ作成を分担するなど、教員全員で利用できるようにしていく。                  ○各部や学年のホームページ掲載数が少ないので、日々の学習内容や学校行事、各部のお便り等を積極的に掲載するように働きかける。</p>																										